

地域で支えよう大切な人

はじめに

皆さん、『認知症』ってご存知ですか？『認知症』は誰にでも起こりうる脳の病気です。脳の働きが悪くなるために、今まで当たり前に行っていたことができなくなったり、物忘れがひどくなったりして、日常生活がうまくできなくなるのが認知症の症状です。認知症になると、自分が自分でなくなるような不安を抱え、とても悲しい気持ちになります。しかし、まわりの温かい見守りや接し方次第で、住みなれた地域で安心して暮らすことができるのです。今回から数回にわたって認知症についてご紹介します。私たちにできることは何か、一緒に考えてみましょう

第1回 「おかしいな」と思ったら早めに相談を



登場人物



ヨシ子さん
(82歳)



百合子さん
(53歳)

日南ヨシ子さんは、日南町で独り暮らしをしています。ヨシ子さんは近所付き合いもよく、畑仕事のかたわらグラウンドゴルフや俳句の会にも参加し、友人もたくさんいます。長男と二男は県外に住んでいます。長女の百合子さんは日南町から車で1時間くらいの所に嫁いでいます。百合子さん週に一度は、買い物や家事などを手伝っているようです。

しかし、ある日、百合子さんはヨシ子さんのいつもと違う様子を感じ取りました。